

平成21年 6月25日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17300195
 研究課題名（和文） 新任教師の能力基準に基づく体育教師教育カリキュラムと
 アセスメント・モデルの開発
 研究課題名（英文） The development of the physical education curriculum & the assessment
 model based on the beginning teacher standard
 研究代表者
 中井 隆司 (TAKASHI NAKAI)
 奈良教育大学・教育学部・准教授
 研究者番号：90237199

研究成果の概要：

アメリカ及びイギリスの体育教員養成カリキュラムとアセスメント・システムの現地調査で得た資料を基に、「実践デザイン」、「授業実践」、「リフレクション」、「目標設定」、「改善・学習」の5ステージから構成される職能成長養成モデルとICT (Information and Communication Technology) を用いた学生の自己・他者省察型授業モデル及び「職責」、「実践的知識」、「実践力」の各能力をアセスメントする手法とモデルを開発し、実際の体育教員養成プログラム及び授業で実践し、その成果を国内外で公表した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	4,300,000	0	4,300,000
2006年度	1,800,000	0	1,800,000
2007年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	11,000,000	1,470,000	12,470,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学，身体教育学

キーワード：新任教師の能力基準，体育教員養成カリキュラム，カリキュラム・アセスメント，知識・実践力・職責，職能成長養成モデル

1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的な特色・独創的な点等：近年の欧米における体育教師教育カリキュラム研究は既に実証・検証段階に入っている。社会からの説明責任が厳しく求められるなかで、「生涯学習者としての教師」という教師像のもと、教員養成段階と現職教育段階で要求される教師の能力基準（「態度・意欲 (Dispositions)」「知識 (knowledge)」「指導能力 (performance)」）が開発され、カリキュラ

ムレベル・授業レベルで個々の能力を学生に習得させるためのさまざまな試みと検証結果が報告されている。例えば、米国ジョージア州立大学では、1994年から能力基準に基づく実践的カリキュラムの開発と、その成果を問うアセスメント・プロジェクトが実施され、全米からも高い評価を受けるカリキュラムとアセスメント・モデルを開発している。

(2) 国内外の諸研究の中での当該研究の位

置：アメリカでは、1980年代からの教師教育に関する2つの大改革で体育教師教育カリキュラムは大きく変貌を遂げている。第1の改革で、州行政による学校の履修基準の厳格化と、教師に対する能力評価テスト、及び能力給制度を導入し、第2の改革で、専門職にふさわしい資格基準・制度と待遇が確立された。また、イギリスでは1990年代に、長期の教育実習を特徴とする「学校を基礎とする教員養成」制度が発足した。そこでの養成プログラムの改善は、実習生の心配事項を問う意識調査をもとに、教育実習で学ぶ実践的知識と大学で学ぶ理論的知識の関連をもたせる方向で進められている。一方、我が国ではここ数年、日本体育科教育学会や日本スポーツ教育学会などで体育教師教育に関するシンポジウムや実践的力を形成するための授業プランなどが発表され、関心は高まってきているが、新任体育教師として求められる能力やカリキュラムレベルでの検討、さらには、その成果を検証するアセスメント・モデルを検討するまでには至っていない。

2. 研究の目的

我が国の教師教育改革では、主として教員免許法で定められた履修科目とその単位数が問題とされるが、新任教師として要求される資質・能力を教員養成課程で習得させているとは言い難い。一方、諸外国では、アメリカ、イギリスなどの英語圏において「新任教師に要求される能力基準」が作成され、能力ベースに基づいた教師教育カリキュラムとその成果を問うアセスメントが実施されている。

そこで本研究では、次の5つの研究課題を設定して研究を進める。

(1)アメリカとイギリスの「新任体育教師に求められる能力基準」とその能力基準を授業レベルでどのようにして学生に習得させているのかについて調査することである(研究課題①)。

(2)能力ベースでみた日本の体育教師教育カリキュラムの実態を明らかにすることである(研究課題②)。

(3)カリキュラムレベル、授業レベルで想定した能力が学生に習得されたのかどうかを評価(アセスメント)するためのモデル、及びその手法を開発することである(研究課題③)。

(4)我が国における能力ベースの体育教師教育プログラムを試案・試行することである(研究課題④)。

(5)その体育教師教育プログラムの成果と課

題をアセスメントすることである(研究課題⑤)。

3. 研究の方法

(1)アメリカの体育教師教育カリキュラムは、1980年代以降の教育改革で知識ベースから省察ベース、フィールド・ベースにその内容が大きく変わっている。さらには、行政レベルと専門家集団がそれぞれ「新任体育教師に求められる能力基準(Standards)」を作成し、各大学では学生にその能力基準を身につけるためにフィールド・ベースのカリキュラム開発とアセスメントを行っている。そこで、本研究では、その能力基準とカリキュラム・授業内容との関係、さらには、その成果の検証であるアセスメントの方法を収集するために現地調査を行った。調査対象校は、ジョージア州立大学(Georgia State University)、プードゥ大学(Purdue University)、テキサス大学オースティン校(TEXAS University at Austin)、ウエスト・バージニア大学(West Virginia University)、オハイオ州立大学(Ohio State University)、カリフォルニア州立大学チコ校(California State University at Chico)である<研究課題①、③に対応>。

(2)イギリスの体育教師教育カリキュラムは「学校を基礎とする教員養成」に基づくとともに「新任体育教師の能力基準」が国レベルで作成されている。しかし、その能力を学生に習得させる方法は養成機関ごと異なっている。そこで、本研究では、その能力基準とカリキュラム・授業内容との関係、さらには、その成果の検証であるアセスメントの方法を収集するために現地調査を行った。調査対象校は、ラフバラ大学、ローハンプトン大学等である<研究課題①、③に対応>。

(3)我が国の体育教師教育カリキュラムで想定している能力とは何なのか、さらには能力ベースに基づいた我が国の体育教師教育カリキュラムの実態を明らかにするために、国内の小学校・中高保健体育教員課程認定校(167大学)を対象に調査を実施した。さらに、研究代表者及び研究分担者が所属する教員養成学部・短期大学の学生を対象に、「体育教師として習得している能力」に関する調査を実施した<研究課題②に対応>。

(4)アメリカ・イギリスで実施されているアセスメント・モデル及びその方法に関する資料から我が国で実施可能なアセスメント・モ

デルを開発するために、奈良教育大学の学生を対象に教育実習期間で学生がどのような能力を習得していくのかについて「意欲・態度」「知識」「パフォーマンス」の視点からアセスメント・データを収集した<研究課題③に対応>。

(5) 新任体育教師に求められる能力基準の作成、及び、その基準を満たす体育教師教育プログラムを奈良教育大学の学生を対象に試行し、アセスメント・データを収集した<研究課題④、⑤に対応>。

4. 研究成果

(1) 研究課題①、③について：

①アメリカの体育教員養成は、INTASC, NASPE, 州政府の各能力基準に基づく体育教師教育カリキュラムとアセスメントに関してカリキュラム・アセスメントで全米から高い評価を得ているジョージア州立大学保健体育教員養成プログラムから教師教育プログラム・アセスメントモデルであるDR Iモデル(Development, Research, Decision-Making & Improvement Model)及び「新任教員体育教師に求められる能力基準」に基づく体育教員養成カリキュラム構造と授業内容・方法を、ブロードゥー大学体育教員養成プログラムからカリキュラムの質保証に関するアセスメントとインスペクション(査察)の仕組みを、カリキュラム改革を実施しているテキサス大学オースティン校の体育教員養成プログラムからメンターを加えた教育実習の質保証システムを、デジタルコンテンツを用いた実習形式の授業モデルを適用しているウエスト・バージニア大学、オハイオ州立大学からICTとデジタルコンテンツを用いた授業モデルとその方法を、4年+1年の計5年間で教員資格を習得する実践的内容の系統性を重視したプログラムであるカリフォルニア州立大学チコ校の体育教員養成プログラムから5年プログラムのカリキュラム構造とその系統性に関する情報・資料をそれぞれ収集した。なお、本調査結果の一部は中井が「アメリカにおける教師教育改革と体育教師教育カリキュラム・アセスメント—新任教師の能力基準に基づくアセスメント・システム—」と題して日本スポーツ教育学会第25回記念国際大会で、「体育教員養成カリキュラムの質の保障システム—アメリカにおける教師教育改革とアセスメント—」と題して日本スポーツ教育学会第26回大会で発表した。また、森が「アメリカにおけるスタンダードとアセスメントに基づく体育教員養成」

と題して日本スポーツ教育学会第26回大会で、「アメリカにおける学生の実践力を保証する組織的な教育実習アセスメント—GSU・UTAを事例として—」と題して日本スポーツ教育学会第27回大会で発表し、論文として公表した。

③さらに、NCATEと並ぶインスペクション機関であるTEACの調査のためアメリカ・フロリダ州に出張し、南キャロライナ大学とセントラル・フロリダ大学を訪問するとともにThe National Association for Professional Development Schoolsの年次大会に参加し、アメリカにおけるTEACの動向、並びに、インスペクションの実施方法について情報・資料を収集した。

②イギリスの体育教員養成は、OFSTEDの能力基準と体育教師教育カリキュラムに関して、ロンドンの小学校教員養成を行っているローハンプトン大学、中等体育教員養成を行っているリバプール・ジョンモア大学、そしてラフバラ大学のカリキュラム改善の方法と外部評価であるインスペクション(査察)との関係について情報・資料を収集した。なお、調査結果の一部は木原が「イングランドにおける体育の教員養成の評価—査察(インスペクション)とモニタリング—」と題して日本スポーツ教育学会第26回大会及び「イングランドにおけるインスペクション(査察)の教員養成への影響—ローハンプトン大学のモニタリングシステムとスタッフ研修会を中心に—」と題して日本教育方法学会第43回大会で発表し、論文として公表した。

④アメリカ及びイギリスの現地調査を基に、新任体育教師に求められる能力基準に基づくアセスメント・データを収集・分析した結果、知識・実践力・職責(Dispositions)の変容とアセスメント手法の有効性・妥当性を検証することができた。これらの研究成果の一部を、中井が「体育教員養成カリキュラムに対するアセスメント手法の開発—教師効力感によるDispositionsのアセスメント—」と題して日本スポーツ教育学会第27回大会で発表し、論文として公表した。

2) 研究課題②について：

①能力ベースでみた日本の体育教師教育カリキュラムの実態を明らかにするために、国内の小学校・中高保健体育教員課程認定校(167大学)を対象に調査を実施した。その結果、実践的指導力育成の重要性は認識しつつも、組織的な取り組みが課題であり、教育実習も教免法の最低基準の実施校が多く、実習生の指導も実習校にその多くを頼っており、大学と

実習校の連携強化が喫緊の課題であることが明らかになった。この結果は、森が「教員養成段階における実地教育に関する調査」と題して日本体育学会第58回大会で発表し、さらに、「The current state and problems regarding teacher training in Japan as seen from the point of view of fostering practical teaching performance」と題してThe 2007 History & Future Directions of Research on Teaching Education in Physical Education Conferenceで発表した。

②新任教員に要求される知識に関して国内の教員免許課程認定校で教育実習履修前と履修後の学生(274名, 125名)を対象に調査を実施した結果、授業運営能力、授業実践能力など計13個のカテゴリーを抽出したが、学生は能力より「教師としての心得」を重要と考えおり、現在の教員養成カリキュラム内容が能力ベースを重視していない現状とともに、カリキュラムと授業内容の改革の必要性が明らかになった。この結果は、森が「教員志望学生からみた新任体育教員に必要な能力観—教育実習の事前・事後の調査から—」と題して日本スポーツ教育学会第28回大会で発表し、論文として公表した。

3) 研究課題④, ⑤について:

①アメリカ及びイギリスの現地調査を基に、「Webct を用いた職能成長能力養成モデルに基づく体育教師教育プログラム及び3タイプの授業モデル」を開発した。

図1・2に示した「Webct を用いた職能成長能力養成モデルに基づく体育教師教育プログラム」は、「実践デザイン」、「授業実践」、「リフレクション」、「目標設定」、「改善・学習」の5ステージがサイクルとして機能することで教員を目指す学生の自己成長能力である職能成長をサポートするモデルとなっている。各ステージにはICT (Information and Communication Technology) を用いた映像アセスメントやデジタルコンテンツなどの下位ステージがリンクしている。

3タイプの授業モデルは学生の課題解決の道筋の違いから「仕上げ—確認型」であるタイプⅠ(球技(バスケットボール型)で適用)、「気づき—学習型」であるタイプⅡ(初等教科教育法(体育)で適用:表1)、「スパイラル型」であるタイプⅢ(中等教科教育法Ⅲ(保健体育)で適用)に分かれている。なお、本研究結果は中井が「Webct を用いた職能成長養成モデルに基づく体育教員養成授業モデルの実践事例」と題して日本体育学会第59回大会で発表した。

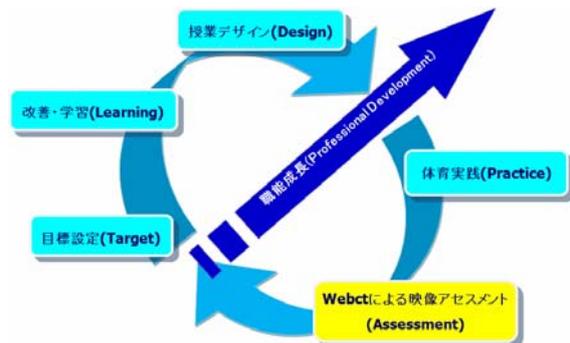


図1: Webct を用いた職能成長能力養成モデルの基本モデル

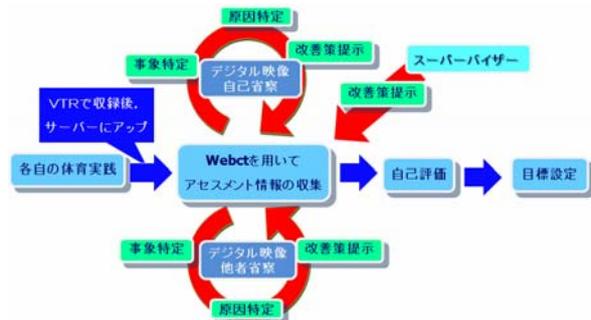


図2: 映像アセスメントの下位ステージ

表1: 初等教科教育法(体育)の授業内容・計画

- 第1回: オリエンテーション
- 第2回: 授業運営能力(マネジメント)
 - 子ども, 時間, 用具, 空間, 課題—
- 第3回: 授業実践能力(教授技術)
 - 子どもとの関わり方—
- 第4回: 授業運営能力についての模擬授業①
- 第5回: 授業運営能力についての模擬授業②
- 第6回: 授業実践能力についての模擬授業①
- 第7回: 授業実践能力についての模擬授業②
- 第8回: 教員として自己成長するためには
 - 省察能力—
- 第9回: 単元・授業の設計能力(授業デザイン)
 - 単元・授業レベル—
- 第10回: 教材づくりに関する能力
 - 教材の工夫と開発—
- 第11回: 教材と学習内容—体育館教材編—
- 第12回: 教材と学習内容—運動場教材編—
- 第13回: 運動観察・分析能力
 - 子どものつまづきを見抜くポイント—
- 第14回: カリキュラム・モデルの選択能力
 - カリキュラム論—
- 第15回: デジタル・ポートフォリオ作成

②「職責」「実践的知識」「実践力」に関する経年的アセスメント・データを奈良教育大学保健体育専修の学生を対象に収集・分析した

結果、本モデル実施にともなう学生の能力変容を確認することができた。

4)その他について：

イギリス・ラフバラ大学のDr. Jo Harris氏とアメリカ・ジョージア州立大学のTheresa Walker氏を奈良教育大学に招聘し、日英・日米の体育教師教育カリキュラムに関する情報交換と講演会を実施した。

5)今後の展望：

教員養成カリキュラムの質保証と学士力の質保証という教員養成改革・大学教育改革が急速に進行するなかで、本研究課題である「新任教師の能力基準に基づく体育教師教育カリキュラムとアセスメント・モデルの開発」で得た職能成長養成モデルと省察型授業モデル、さらにアセスメント手法は、これら質保証に向けて重要な示唆を与えているだけでなく、教員養成に携わる大学教員の役割と求められる資質能力にも関係している。つまり、評価者・研究者としての役割からアセスメント情報提供者（アセサー）としての役割、知識注入型から省察型への授業方法・モデルへの転換が求められているのである。

その意味からも、プログラムに留まらず、入学時から卒業時までの教員養成カリキュラム全体を精査し、資質能力形成の道筋に沿った体育教員養成カリキュラム構造の構築と授業内容・方法の改善が望まれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- 1) 森博文・中井隆司・栗原武志(2009), 教員志望学生からみた新任体育教員に必要な能力—教育実習の事前・事後の調査から—。京都女子大学発達教育学部紀要, 査読(無), 5:113-120.
- 2) 小柳和喜雄(2009), ミドルリーダーのメンターリング力育成プログラムの萌芽的研究。奈良教育大学教職大学院研究紀要学校教育実践研究, 査読(無), 1:13-24.
- 3) 小柳和喜雄(2009), 学部から大学院につながる体系的な観察実習の方法。奈良教育大学教職大学院研究紀要学校教育実践研究, 査読(無), 1:79-86.
- 4) 木原成一郎・岩田昌太郎・山本真由美(2008), イングランドにおけるインスペクション(査察)の教員養成への影響—ローハンプトン大学のモニタリングシステムと

スタッフ研修会を中心に—。学校教育実践学研究, 査読(無), 14:1-12.

- 5) 森博文(2008), アメリカの体育教師教育にみる質の保証—ジョージア州立大学・テキサス大学オースティン校の教育実習を中心として—。体育・スポーツ科学, 査読(有), 56(10):36-40.
 - 6) Hirofumi Mori, Takashi Nakai, Seiichiro Kihara(2008)The current state and problems regarding teacher training in Japan asseen from the point of view of fostering practical teaching performance. 京都女子大学「発達教育学部紀要」, 査読(無), 4:41-54.
 - 7) 小柳和喜雄(2008), メンターティーチャー・ハンドブックの開発研究—媒介目標を用いた実習校担当教員と大学の指導教員の連携指導を目指して—。奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 査読(有), 17:177-183.
 - 8) 中井隆司・澤田あかね(2007), 小学校体育教育授業への取り組みに対する自己診断表作成の試み—反省的実践家として自己成長できる教師を目指して—。奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 査読(有), 16:31-39.
 - 9) 木原成一郎・岩田昌太郎・山本真由美(2007), 教育実習の質を保証する大学と学校の連携—英ローハンプトン大学における教育実習生援助システム—。体育科教育, 査読(無), 55(5):74-77.
 - 10) 木原成一郎・山本真由美(2006), 体育授業の水準向上のための教師の成長援助への取り組み—イングランドの教員養成援助プロジェクト—。体育科教育, 査読(無), 54(7):74-77
 - 11) Takashi NAKAI & Michael W. Metzler(2005), Standards and Practice for K-12 Physical Education in Japan. Journal of Physical Education, Recreation & Dance, 査読(有), 76(7):17-22.
 - 12) 中井隆司・大友智・岡出美則(2005), アメリカにおける教師教育改革と体育教師教育カリキュラム・アセスメント—新任教師の能力基準に基づくアセスメント・システム—。日本スポーツ教育学会第25回記念国際大会論集, 査読(有), 215-221.
- [学会発表] (計 13 件)
- 1) 中井隆司・木原成一郎・森博文, Webctを用いた職能成長養成モデルに基づく体育教員養成授業モデルの実践事例, 日本体育学会第59回大会, 9.10.2008, 早稲田大学.

- 2) 森博文・中井隆司・栗原武志, 教員志望学生からみた新任体育教員に必要な能力観—教育実習の事前・事後の調査から—, 日本スポーツ教育学会第28回大会, 10. 11. 2008, 奈良教育大学.
- 3) 中井隆司・木原成一郎・森博文, 体育教員養成カリキュラムに対するアセスメント手法の開発—教師効力感によるDispositionsのアセスメント—, 日本スポーツ教育学会第27回大会, 11. 3. 2007, 信州大学.
- 4) 木原成一郎・小柳和喜雄, イングランドにおけるインスペクション(査察)の教員養成への影響—ローハンプトン大学のモニタリングシステムとスタッフ研修会を中心に—, 日本教育方法学会第43回大会, 9. 28-29. 2007, 京都大学.
- 5) 森博文, 木原成一郎, 教員養成段階における実地教育に関する調査, 日本体育学会第58回大会, 9. 7. 2007, 神戸大学.
- 6) Hirofumi MORI, Takashi NAKAI, The current state and problems regarding teacher training in Japan as seen from the point of view of fostering practical teaching performance, The 2007 History & Future Directions of Research on Teaching Education in Physical Education Conference, 10. 13. 2007, Pittsburgh, USA.
- 7) 森博文, 中井隆司, 木原成一郎, アメリカにおける学生の実践力を保証する組織的な教育実習アセスメント—GSU・UTAを事例として—, 日本スポーツ教育学会第27回大会, 11. 3. 2007, 信州大学.
- 8) 小柳和喜雄, メンターティーチャー・ハンドブックの開発研究—媒介目標を用いた実習校担当教員と大学の指導教員の連携指導を目指して—, 日本教師教育学会第17回大会, 9. 29. 2007, 鳴門教育大学.
- 9) 中井隆司・木原成一郎・森博文, 体育教員養成カリキュラムの質の保障システム—アメリカにおける教師教育改革とアセスメント—, 日本スポーツ教育学会第26回大会, 11. 19. 2006, びわこ成蹊スポーツ大学.
- 10) Takashi NAKAI, Standards and Reformation for Physical Education Teacher Education in Japan, NASPE PETE Conference, 10. 13. 2006, Long Beach, CA, USA.
- 11) 木原成一郎・中井隆司・森博文, イングランドにおける体育の教員養成の評価—査察(インスペクション)とモニタリング—, 日本スポーツ教育学会第26回大会, 11. 19. 2006, びわこ成蹊スポーツ大学.
- 12) 森博文・木原成一郎・中井隆司, アメリ

カにおけるスタンダードとアセスメントに基づく体育教員養成, 日本スポーツ教育学会第26回大会, 11. 19. 2006, びわこ成蹊スポーツ大学.

- 13) 中井隆司・大友智・岡出美則, アメリカにおける教師教育改革と体育教師教育カリキュラム・アセスメント—新任教師の能力基準に基づくアセスメント・システム—, 日本スポーツ教育学会第25回記念国際大会, 11. 23. 2005, 筑波大学.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中井 隆司(TAKASHI NAKAI)
奈良教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 9 0 2 3 7 1 9 9

(2) 研究分担者

木原 成一郎(SEIICHIROU KIHARA)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 2 0 2 1 4 8 5 1

森 博文(HIROFUMI MORI)
京都女子大学・短期大学部・准教授
研究者番号: 0 0 3 4 2 3 7 9

小柳 和喜雄(WAKIO OYANAGI)
奈良教育大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 0 0 2 2 5 5 9 1

(3) 連携研究者